

公安委員会定例会議(第18回)の開催状況

- 第1 日 時 令和4年7月27日(水)
午後1時30分 ～ 午後4時45分
- 第2 出席者 五葉委員長、曾我部委員、渡部委員
本部長、総務室長、警務部長、首席監察官、刑事部長
交通部長、警備部長、警察学校長、情報通信部長、総務課長
生活安全企画課長

第3 議事の概要

1 曾我部委員説示

本日は、先日聴講した経済講演会で感じたことについて話します。

現在、日本国内ではガソリン1リットル当たりの価格が170円台と高値が続いているほか、スーパーの商品の多くが値上がりするなど、円安ドル高の影響により経済的に苦しい思いをしている方々がたくさんいます。日本政府は、日本経済が円高になった場合、その対策として積極的に為替レートを操作して円安に向かわせようとしませんが、今回の円安では経済対策を講じる動きは全くありません。有識者からは、政府は円安を容認することにより、再び産業競争力を強化しようとする考えがあるとの指摘もあるようです。

世界の経済界から「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と言われた20数年前、米国は日本の産業を抑え込もうと円高に向けた対策を進めました。これに伴い日本企業は国際競争力が弱まったほか、国内製造から海外製造へと工場の移転を進め、気が付けば日本企業が開発した高度な技術力は外国に盗まれていました。

現在、中国や韓国といった近隣諸国が著しい成長を遂げており、日本政府は日本経済の復活に向け、故意的に円安を放置しているという話もありますが、連日報道されているとおり、中小企業を含め日本企業が非常に苦しい経営を強いられており、この状況を打破するためには国家戦略として強い意思を持って産業を守っていくことが必要です。それは、防衛だけで国家を守るのではなく、産業で国家を守っていくという意味での安全保障があっても良いのではないかとということです。

私自身も日本の製造技術能力の低下を危惧しています。物を製造しなければ技術が廃れていくだけでなく、それに関わる技術者等も育たなくなります。また、技術で勝る日本がこのまま産業の競争で負け続けると、資源や食糧を海外に依存するだけの国家に成り下がり、日本経済がますます凋落してしまう気がしており、非常に心配です。

今、本当の意味で、先端技術等の産業技術をどのように残していくかを

真剣に考えなければならない時代になっています。人材を確保して産業を残す、産業を残すから人材が残るのかもしれませんが、いずれにせよ、人材と産業の双方向から様々なものを守っていかなければなりません。産業界に身を置く我々も、世界で勝負できる高度な技術を持つ人材の育成とともに事業継承にも尽力したいと思っています。

警察においても、しっかりと強い意思を持って、サイバー犯罪捜査などの専門的・技術的分野を含む様々な人材の育成に計画的に取り組んでいただきたいと思います。

2 決裁事項

(1) 公安委員会定例会議の会議録

総務室から、令和4年第17回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。

(2) 公安委員会宛て苦情申出の受理（2件）

総務室から、公安委員会宛て苦情申出の受理について伺いがあり了承した。

(3) 犯罪被害者等早期支援団体の規制に基づく書類提出

総務室から、犯罪被害者等早期支援団体の規制に基づく書類提出について伺いがあり了承した。

(4) 審査請求の申立て

警務部から、審査請求の申立てについて伺いがあり了承した。

(5) 監査の実施

警務部から、監査の実施について伺いがあり了承した。

(6) 禁止命令等実施報告（4件）

生活安全部から、禁止命令等実施報告について伺いがあり了承した。

(7) 警察職員等の援助の要求

警備部から、警察職員等の援助の要求について伺いがあり了承した。

(8) 運転免許の行政処分に係る意見の聴取及び聴聞

交通部から、運転免許の行政処分に係る意見の聴取及び聴聞結果について報告があり、審議の結果21件の行政処分の決定について伺いがあり了承した。

3 報告事項

(1) 令和4年愛媛県警察運営目標推進状況（上半期）

警務部長等から、令和4年上半期における愛媛県警察運営目標推進状況について報告があった。

委員から、「半年毎に推進状況を見直して改善を図ることは重要である。警察相談件数の増加は警察を信頼している証左であり、引き続き、県民の視点に立った対応を行っていただきたい」との発言があった。

委員から、「警察相談に当たっては、丁寧な対応とレスポンスの早さ

に配慮して対応していただきたい」「薬物犯罪の撲滅に向け、引き続き関係機関と連携しながら、犯罪組織等を取り締まっていただきたい」との発言があった。

(2) 令和4年上半期におけるサイバー犯罪の現状と今後の対策

生活安全企画課長から、令和4年上半期におけるサイバー犯罪の現状と今後の対策について報告があった。

委員から、「県警職員一人一人のサイバー犯罪への対処能力を高めるために、県警内における教養を一層推進していただきたい」との発言があった。

委員から、「サイバー犯罪防止対策として、昨今の巧妙な犯罪手口等について初心者でも分かるように記載した教養・広報資料を企業等に配布するなど、官民連携による取組を進めていただきたい」との発言があった。

(3) 大洲市菅田町所在の菅田郵便局における持凶器強盗事件の発生・検挙（大洲署）

刑事部長から、大洲市菅田町所在の菅田郵便局における持凶器強盗事件の発生・検挙について報告があった。

委員から、「捜査員相互で所要の連携を行い、被疑者を早期に検挙できたことは良かったと思う」「平素から郵便局での強盗事件を想定した防犯訓練を行うなど、郵便局の自主防犯意識の高揚に向けた活動にも取り組んでいただきたい」との発言があった。

委員から、「犯人の追跡捜査に当たっては、防犯カメラ捜査が極めて重要であることを再認識し、今後も事件発生後は、迅速に防犯カメラ映像を収集・分析するよう努めていただきたい」との発言があった。

委員から、「引き続き、犯行に至った動機をはじめ事件の全容解明に努めていただきたい」との発言があった。

(4) 道路交通法違反（妨害運転）事件の検挙

交通部長から、道路交通法違反（妨害運転）事件の検挙について報告があった。

委員から、「重大な交通事故につながりかねない『あおり運転』の検挙に至ったことは良かった。引き続き、各種の交通違反取締りに取り組んでいただきたい」との発言があった。

(5) 監察案件に関する報告

警務部から、監察案件に関する報告があった。

(6) 飲食店営業を営む者に対する不利益処分に係る聴聞の中止

生活安全部から、飲食店営業を営む者に対する不利益処分に係る聴聞の中止について報告があった。

(7) 松山市三番町における少年グループによる強盗致傷事件検挙

刑事部から、松山市三番町における少年グループによる強盗致傷事件検挙について補足説明があった。

4 その他

本部長から、「委員説示のとおり、経済産業界では、『円安』が競争力強化のための一つの処方箋にもなるという前向きな考えがあることについては非常に心強く感じている」「先日、曾我部鐵工所を視察させていただき、日本の強みは諸外国にはない精密な機器を生産して輸出することであると実感した。円安をきっかけとして、国内企業が日本独自の技術を汎用した物づくりにしっかりと取り組むことにより、雇用の面だけでなく治安の面でも良い方向に向かうと考える」「警察はこれまで、行き過ぎた職務執行に対する批判を受けることが多かったが、昨今では、不作為に対する批判や指摘が増加するなど、県民が警察に求める水準が高まっていると感じている。今回検挙に至った強盗事件に限らず、今後も過度な作為のほか、不作為、すなわち、実行すべき対応をしっかりと実行しているかいないのかという観点を踏まえながら、適正かつ丁寧に対応してまいりたい」との発言があった。

以上